

地 理 B

(解答番号 ~)

第1問 次の図1を見て、世界の自然環境と自然災害に関する下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 17)

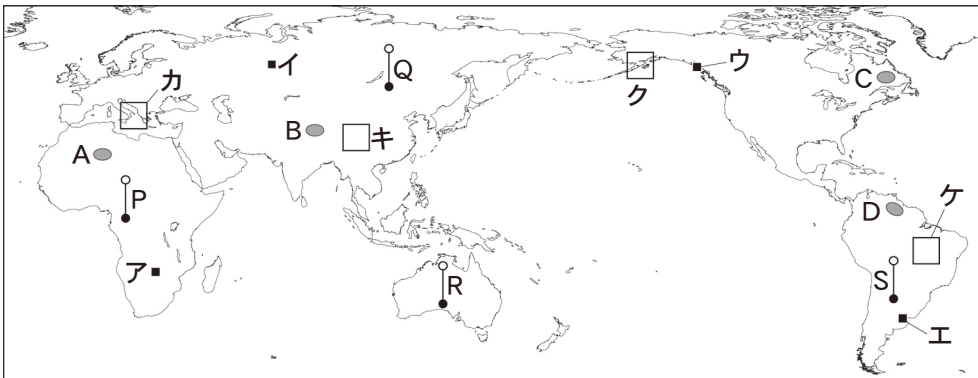
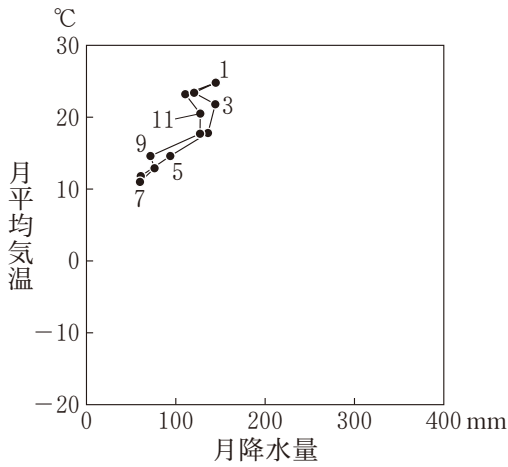


図 1

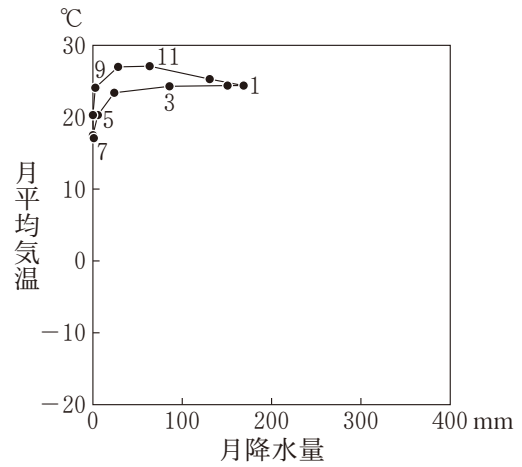
問1 次の①～④の文は、図1中のA～Dのいずれかの高地にみられる自然環境の特徴について述べたものである。Cに該当するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 標高が約 500～1000 m で、氷河の削った侵食地形がみられる。
- ② 標高が約 900～3000 m で、ワジやオアシスがみられる。
- ③ 標高が約 2000～3000 m で、テーブル状の山が分布している。
- ④ 標高が約 4000～5000 m で、永久凍土が分布している。

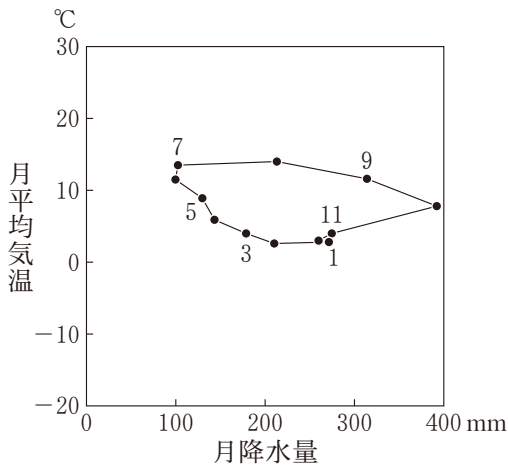
問 2 次の図2中の①～④は、図1中のア～エのいずれかの地点における月平均気温と月降水量をハイサーグラフで示したものである。ウに該当するものを、図2中の①～④のうちから一つ選べ。 2



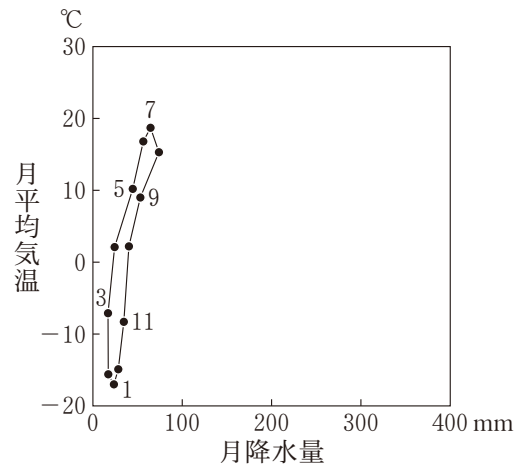
①



②



③



④

気象庁の資料により作成。

図 2

地理 B

問 3 地震*の震源や火山**の分布は、プレート境界の分布と関係している。図 1 中のカ～ケの地域のうち、地震の震源と火山の両方が分布する地域の組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 3

*1991～2010年に発生した、震源が地下 100 km より浅いマグニチュード 4 以上の地震。

**おおむね過去 1 万年間に活動があったもの。

① カとキ

② カとク

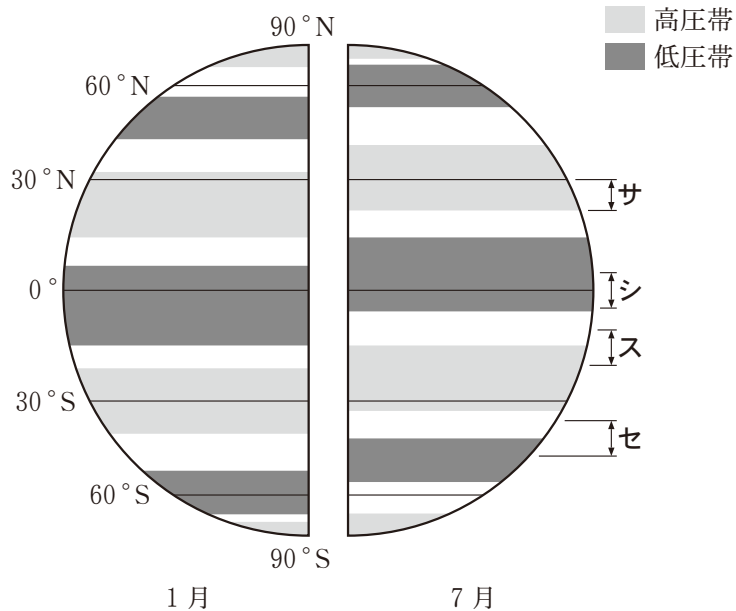
③ カとケ

④ キとク

⑤ キとケ

⑥ クとケ

問 4 次の図 3 は、1 月と 7 月に特徴的にみられる気圧帯の位置を模式的に示したものである。図 3 から読み取れることがらやその背景について述べた文として下線部が適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 4



福井英一郎ほか編『日本・世界の気候図』などにより作成。

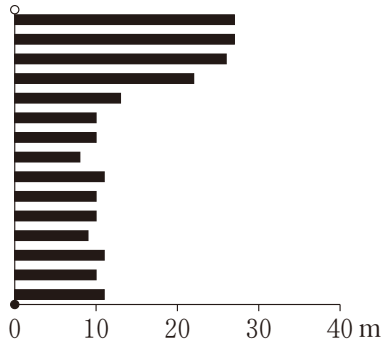
図 3

- ① サの緯度帯では、下降気流の影響で、年間を通じて雨が降りにくい。
- ② シの緯度帯では、上昇気流の影響で、年間を通じて多量の雨が降りやすい。
- ③ スの緯度帯では、1 月ごろに雨季のみられる気候が形成されやすい。
- ④ セの緯度帯では、7 月ごろに高温で乾燥する気候が形成されやすい。

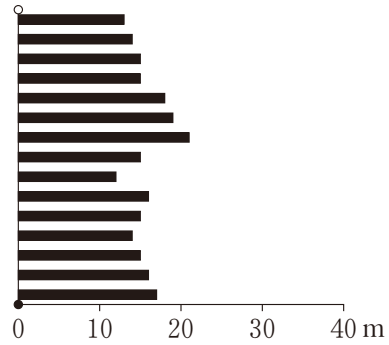
地理 B

問 5 次の図 4 中の①～④は、図 1 中の P～S のいずれかの経線に沿った樹木の高さ*を示したものである。Q に該当するものを、図 4 中の①～④のうちから一つ選べ。 5

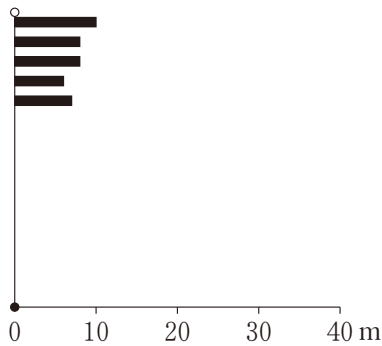
*その地域の植生を構成する樹木の最大の高さ。樹木の生育していない地域では 0 m とする。



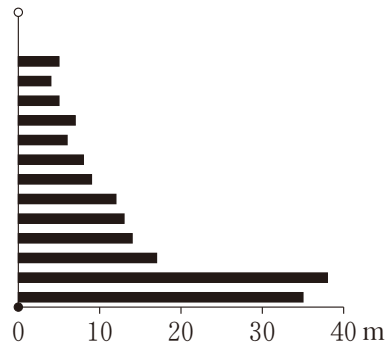
①



②



③



④

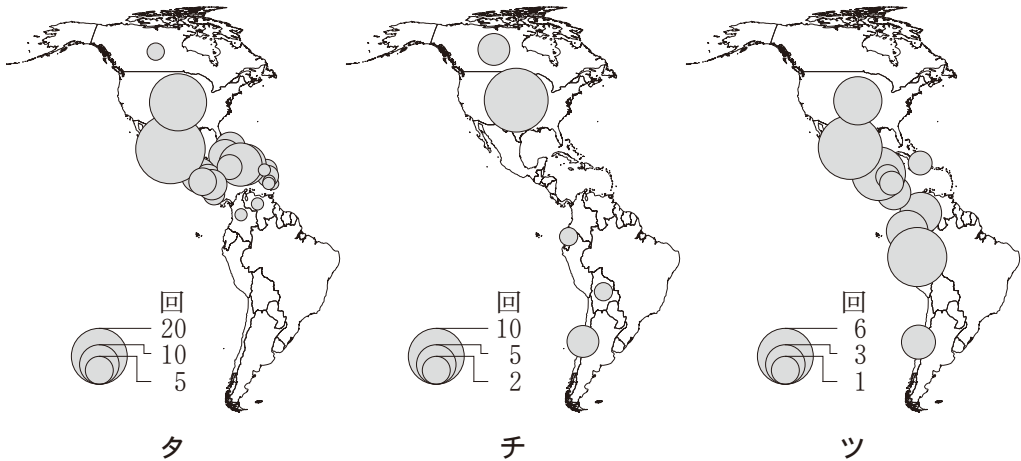
データは緯度 1 度ごと。
NASA の資料により作成。

図 4

問 6 自然災害の種類やその発生頻度は、各地域の自然環境の特徴や生活と密接に結びついている。次の図5は、いくつかの自然災害*について、南北アメリカにおける2008～2017年の発生数**を国別に示したものであり、タ～ツは、地震、森林火災、熱帯低気圧のいずれかである。災害名とタ～ツとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

*死者10名以上、被災者100名以上、非常事態宣言の発令、国際援助の要請のいずれか一つ以上をもたらしたもの。

**一つの災害が複数の国に被害をもたらした場合は、それぞれの国に発生数が加算される。



Université Catholique de Louvain の資料により作成。

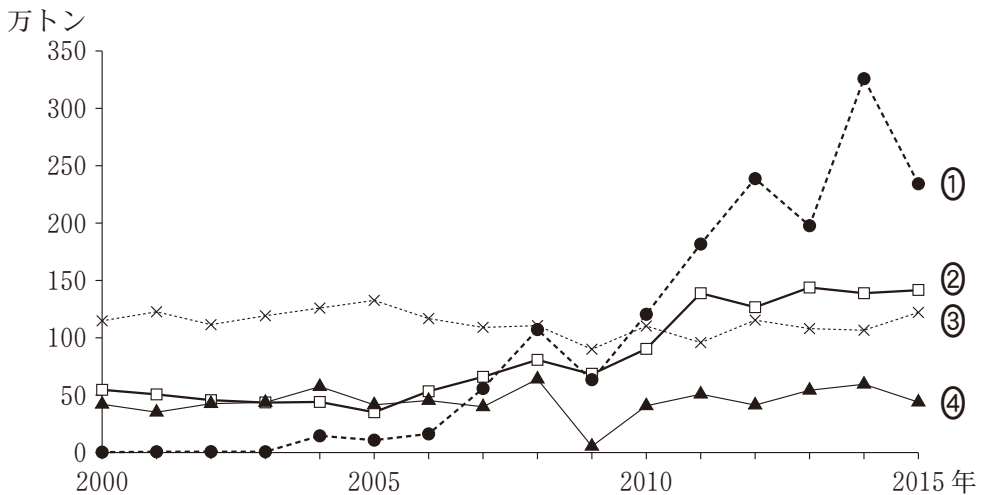
図 5

	①	②	③	④	⑤	⑥
地震	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
森林火災	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
熱帯低気圧	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

地理 B

第 2 問 資源と産業に関する次の問い(問 1～6)に答えよ。(配点 17)

問 1 レアメタルの一つであるマンガンは、鉄鋼の生産など様々な工業で用いられてきた。次の図 1 は、いくつかの国におけるマンガン鉱の輸入量の推移を示したものであり、①～④は、インド、韓国、スペイン、日本のいずれかである。韓国に該当するものを、図 1 中の①～④のうちから一つ選べ。 7



UN Comtrade により作成。

図 1

問 2 水産業と水産資源に関連することがらについて述べた文として下線部が**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 1980 年代後半から 1990 年代半ばにかけて、日本では水産物の輸入量が増加した。
- ② 世界各国で水産資源の需要が高まる中で、2000 年と比べて 2015 年の世界の漁獲量に占める養殖業の割合は増加した。
- ③ 世界の好漁場の多くは、大陸棚のある海域に分布している。
- ④ 日本では、排他的経済水域の設定の影響で沖合漁業の漁獲量が激減した。

地理 B

問 3 産業構造の変化は輸出品目の内訳に反映される。次の表 1 は、1990 年と 2015 年におけるシンガポールとトルコの輸出品目について、上位 5 品目とそれらが輸出総額に占める割合を示したものであり、ア～ウは、衣類、果実類、電気機械のいずれかである。品目名とア～ウとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 9

表 1

(単位：%)

順位	シンガポール				トルコ			
	1990 年		2015 年		1990 年		2015 年	
1 位	ア	24.4	ア	34.1	イ	20.3	輸送機械	12.1
2 位	一般機械	23.4	一般機械	14.7	鉄 鋼	10.3	イ	10.3
3 位	石油製品	17.5	石油製品	12.1	ウ	7.7	一般機械	8.6
4 位	イ	3.0	有機化合物	4.5	革製品	5.2	ア	5.8
5 位	プラスチック製品	2.3	精密機械	4.5	綿	4.5	金	5.1

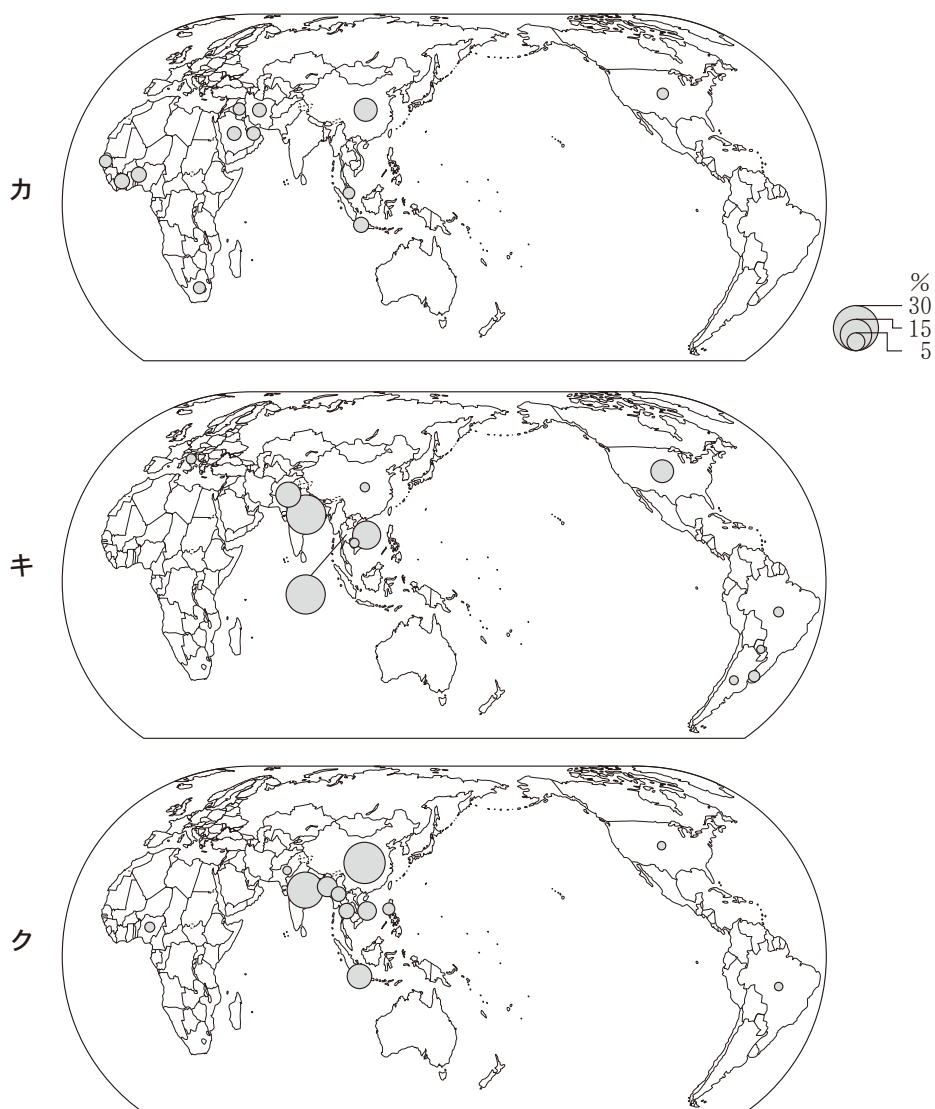
UN Comtrade により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
衣 類	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
果実類	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
電気機械	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

地理 B

問 4 次の図 2 中のカ～クは、米の生産量、輸出量、輸入量のいずれかについて、上位 12 か国・地域とそれらが世界全体に占める割合を示したものである。項目名とカ～クとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

10



中国の数値には台湾、ホンコン、マカオを含まない。
統計年次は 2015 年。
FAOSTAT により作成。

図 2

	①	②	③	④	⑤	⑥
生産量	カ	カ	キ	キ	ク	ク
輸出量	キ	ク	カ	ク	カ	キ
輸入量	ク	キ	ク	カ	キ	カ

問 5 近年、世界各地で自然環境をいかした発電方法が導入されつつある。2015 年における年間発電量のうち、総発電量に占める風力の割合が 20 % を超える国・地域に該当するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① イラン ② カナダ ③ 台湾 ④ ポルトガル

問 6 経済のサービス化や知識産業化の進展の度合いは、国や地域によって異なる特徴を示す。次の表 2 は、いくつかの国における人口 1 人当たり GNI (国民総所得)、人口 1 人当たり研究開発費*、労働人口に占める金融・保険業の従業者割合を示したものであり、①～④は、アラブ首長国連邦、スイス、日本、ハンガリーのいずれかである。日本に該当するものを、表 2 中の①～④のうちから一つ選べ。 12

*国内での研究開発に投じられた費用の総額。

表 2

	人口 1 人当たり GNI (ドル)	人口 1 人当たり 研究開発費 (ドル)	労働人口に占める 金融・保険業の従業者割合 (%)
①	82,681	2,126	5.2
②	40,469	630	1.9
③	35,939	1,328	3.0
④	11,771	366	2.2

統計年次は、人口 1 人当たり GNI と人口 1 人当たり研究開発費が 2015 年、労働人口に占める金融・保険業の従業者割合が 2016 年。

ILOSTAT などにより作成。

地理 B

第 3 問 都市と村落に関する次の問い(問 1～6)に答えよ。(配点 17)

問 1 次の図 1 は、北半球を赤道から緯度 15 度ごとに区切った範囲を示したものであり、下の表 1 中の①～④は、図 1 中のア～エのいずれかの範囲における人口 300 万人以上の都市*の数の推移を示したものである。ウに該当するものを、表 1 中の①～④のうちから一つ選べ。 13

*各時点での各国の統計上の定義による。

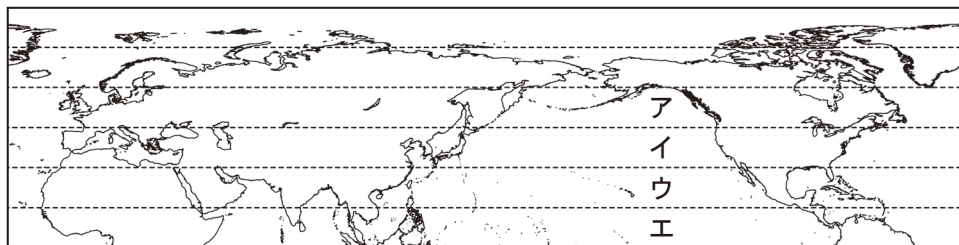


図 1

表 1

	1975 年	1995 年	2015 年
①	21	33	54
②	6	19	39
③	6	8	9
④	4	8	15
世界全体	44	79	141

World Urbanization Prospects により作成。

問 2 国内での都市の人口規模の違いは、その国の歴史や政治・経済状況と関係がある。人口規模第 1 位の都市の人口*が、第 2 位の都市の人口*の 2 倍未満である国に該当するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

*統計年次は 2011 年、2015 年、2016 年のいずれか。

- | | |
|---------|-----------|
| ① エチオピア | ② オーストラリア |
| ③ 韓 国 | ④ チェコ |

問 3 都市の経済発展や都市への人口集中は、様々な都市問題を発生させる。都市問題やその対策について述べた文として下線部が適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① インドのムンバイ(ボンベイ)では、人口流入が続き、不良住宅地(スラム)に居住している人も多い。
- ② ドイツのフライブルクでは、路面電車などの公共交通網を整備し、中心市街地への自家用車の流入を抑制してきた。
- ③ ニューヨークの都心部では、近年の再開発によって住宅が改装・建設され、高所得者層が減少した。
- ④ ペキンでは、工場での石炭使用や自家用車の急増などから、大気汚染が深刻な状況となってきた。

問 4 1997年に中国に返還されたホンコンでは、政治体制や経済情勢の変化が住民の構成にも影響している。次の表2は、ホンコンにおける、1996年と2016年の労働者総数、2016年の労働者総数に占める管理職・専門職*従事者の割合を国籍**別に示したものであり、①～④は、イギリス、タイ、日本、フィリピンのいずれかである。フィリピンに該当するものを、表2中の①～④のうちから一つ選べ。 16

*看護師，小学校教員，土木技術者などを含む。
 **調査の際に回答された第1の国籍。

表 2

	労働者総数(人)		労働者総数に占める管理職・専門職 従事者の割合(%)
	1996年	2016年	
①	115,102	177,984	2.6
②	96,272	19,468	83.6
③	9,663	5,589	81.9
④	9,444	6,145	8.6

1996年の値には、ホンコン居留権のみの保有者は含まない。
 香港政府統計処の資料により作成。

地理 B

問 5 地域間の人口移動には、地域間の結びつきやそれぞれの地域の社会経済的な状況などが大きく影響している。次の表 3 は、日本のいくつかの都府県間における 1 年間の人口転出入数*を示したものであり、カ～ケは、宮城県、秋田県、鳥取県、岡山県のいずれかである。鳥取県に該当するものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 17

*同一の都府県内の移動を含まない。

表 3

(単位：人)

転出前の 住所地	転入後の住所地					
	東京都	大阪府	カ	キ	ク	ケ
東京都	—	17,439	6,483	2,163	1,872	655
大阪府	25,390	—	1,073	3,158	140	1,038
カ	9,499	1,269	—	155	1,683	54
キ	3,453	3,611	204	—	36	873
ク	3,035	190	2,482	32	—	13
ケ	1,034	1,218	38	908	4	—

統計年次は 2017 年。

総務省の資料により作成。

① カ

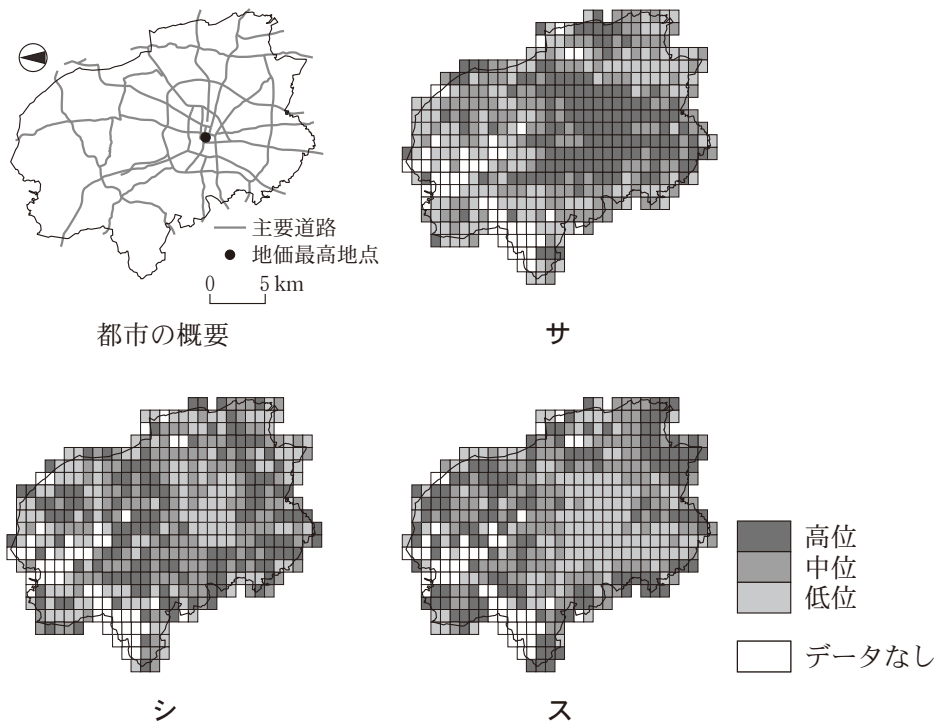
② キ

③ ク

④ ケ

問 6 都市が成長するにつれて、都市内部では機能が分化し、人口構成にも差異が生じる。次の図2は、人口50万人規模の日本のある県庁所在都市について、その概要と、いくつかの人口に関する指標をメッシュで示したものであり、サ～スは、総人口に占める居住期間が5年未満の人口*割合、総世帯数に占める核家族世帯割合および第1次産業就業者世帯割合のいずれかである。指標名とサ～スとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

*出生時からの居住者は含まない。



統計年次は2015年。
国勢調査などにより作成。

図 2

	①	②	③	④	⑤	⑥
居住期間が5年未満の人口割合	サ	サ	シ	シ	ス	ス
核家族世帯割合	シ	ス	サ	ス	サ	シ
第1次産業就業者世帯割合	ス	シ	ス	サ	シ	サ

地理B

第4問 次の図1を見て、東南アジアとオセアニアに関する下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 17)

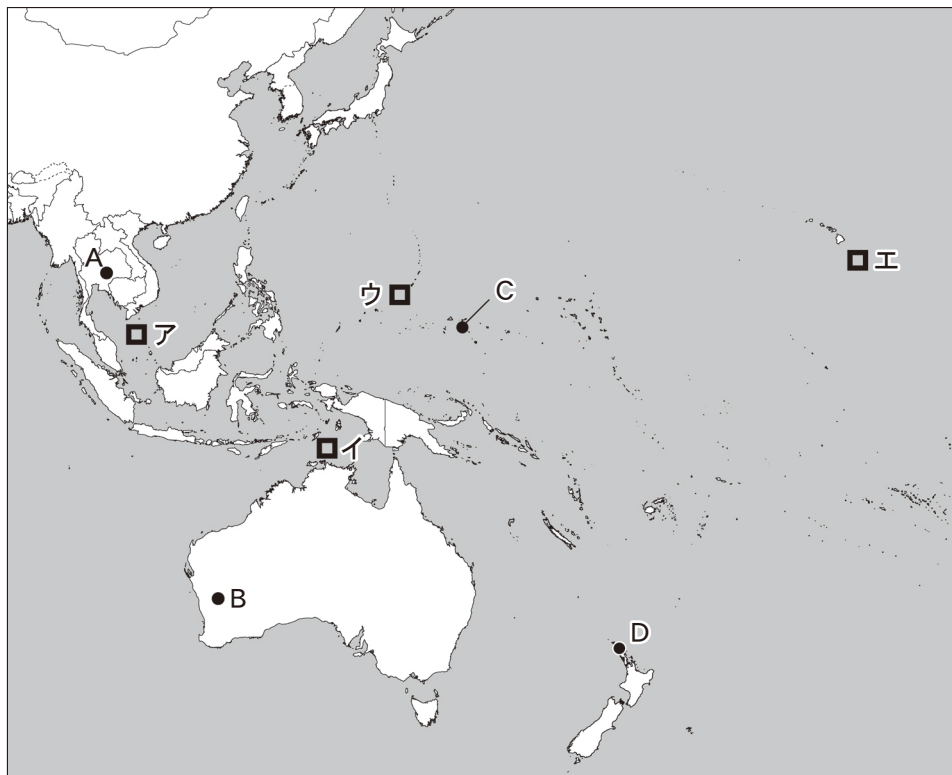


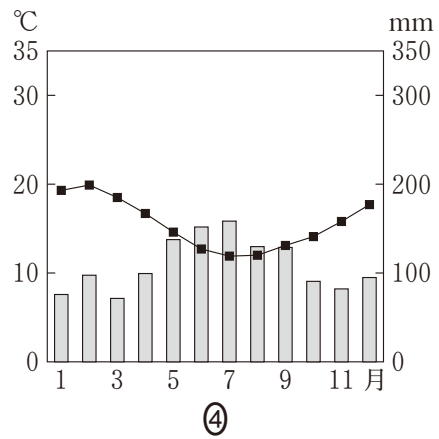
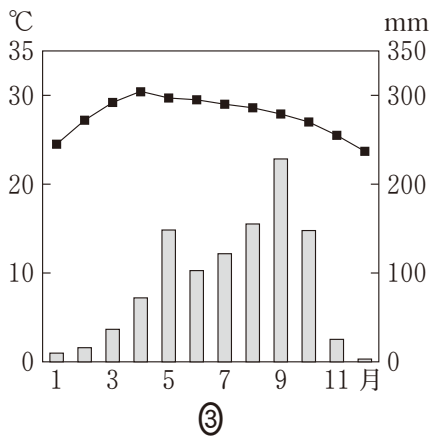
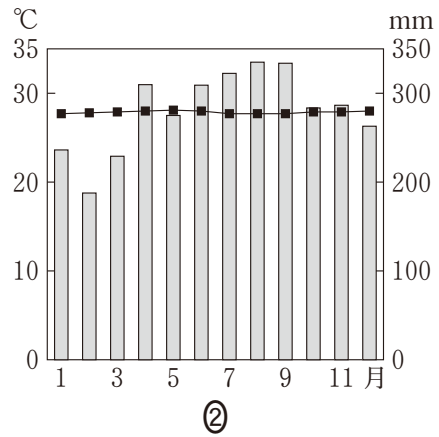
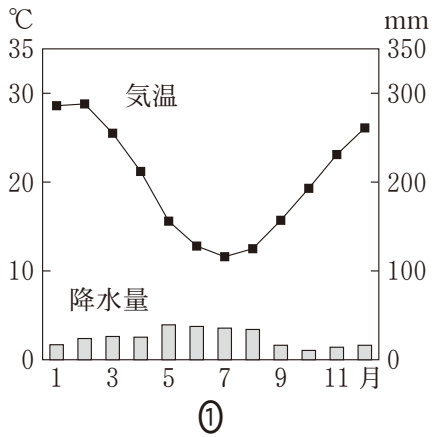
図 1

問1 図1中のア～エのうち、水深の最も深い場所を含む海域を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ

問 2 次の図2は、図1中のA～Dのいずれかの地点における月平均気温と月降水量を示したものである。Dに該当するものを、図2中の①～④のうちから一つ選べ。

20



気象庁の資料により作成。

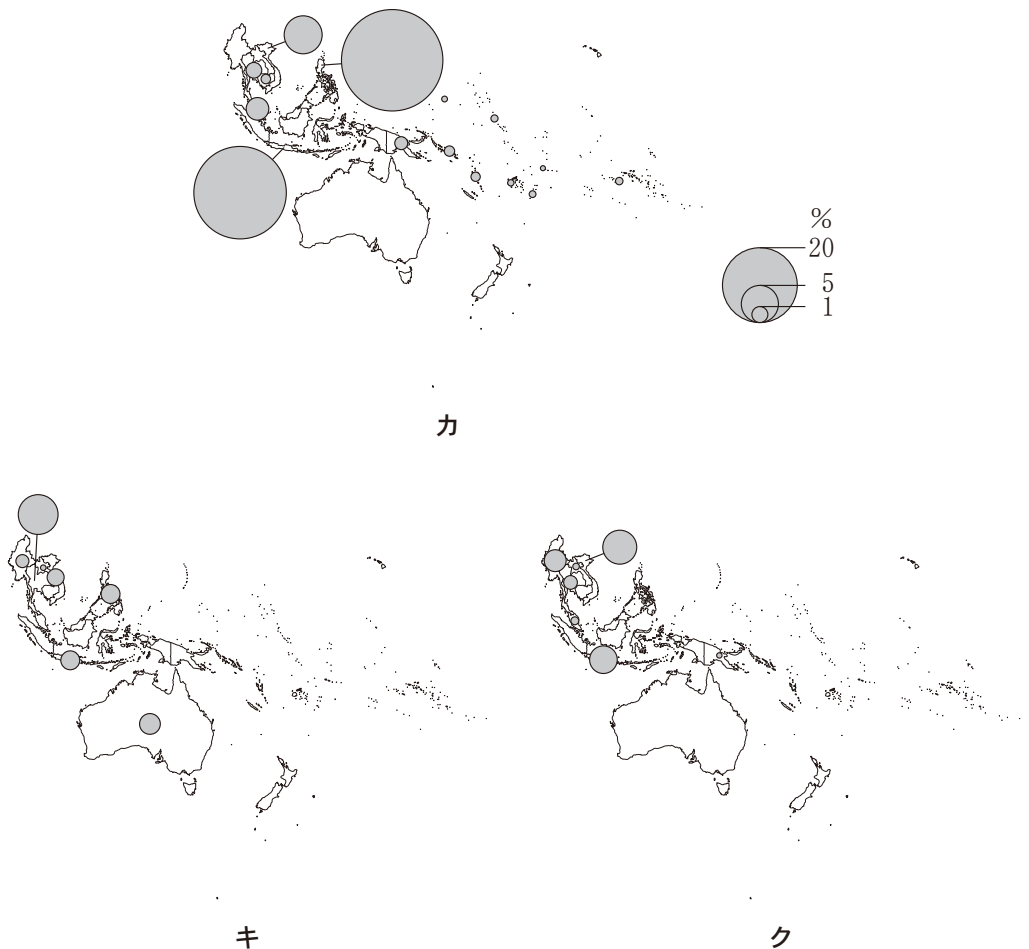
図 2

地理 B

問 3 東南アジアとオセアニアで行われているプランテーション農業の作物やその加工品は、いくつかの国の特徴的な輸出産品となっている。次の図 3 中のカ～クは、東南アジアとオセアニアにおけるコブラ油*、サトウキビ、茶のいずれかの生産量について、世界に占める割合を国・地域別に示したものである。品目名とカ～クとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

21

*ココヤシの果実の胚乳^{はいにゅう}を乾燥させたコブラから得られる油。



統計年次は 2014 年。
FAOSTAT により作成。

図 3

	①	②	③	④	⑤	⑥
コブラ油	カ	カ	キ	キ	ク	ク
サトウキビ	キ	ク	カ	ク	カ	キ
茶	ク	キ	ク	カ	キ	カ

問 4 東南アジアとオセアニアの豊富な鉱産資源は、外貨の獲得に寄与している。次の表1は、いくつかの鉱産資源について、世界の産出量に占める割合を地域・国別に示したものであり、①～④は、すず、鉄鉱石、ニッケル、ボーキサイトのいずれかである。ボーキサイトに該当するものを、表1中の①～④のうちから一つ選べ。 22

表 1

(単位：%)

	①	②	③	④
東南アジア(大陸部)	14.1	1.5	0.4	0.2
東南アジア(島嶼部)	19.3	29.9	11.8	0.2
オーストラリア	2.4	9.7	27.1	34.7
オセアニア (オーストラリアを除く)	0.0	9.3	0.2	0.1

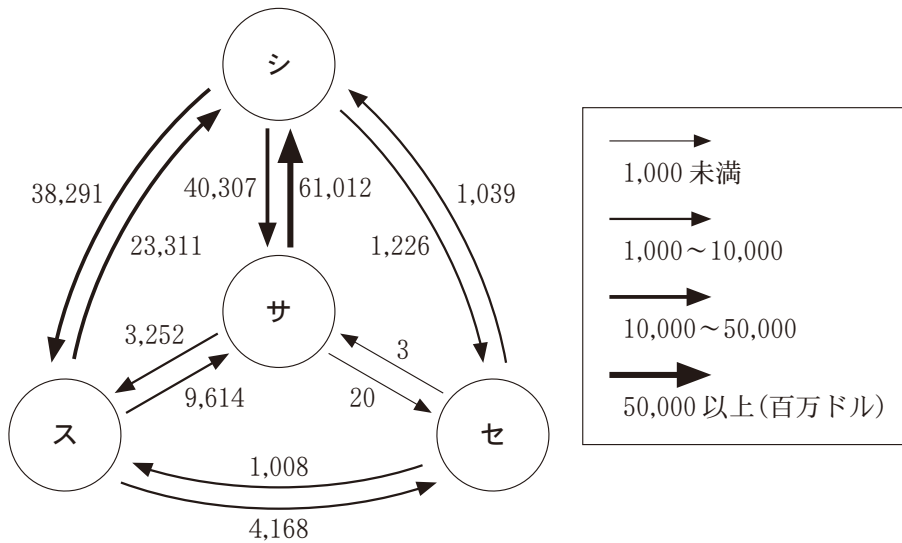
東南アジア(島嶼部)は、マレーシアを含む。
統計年次は2015年。
USGSの資料により作成。

地理 B

問 5 次の図 4 は、いくつかの国について、それぞれの国に対する輸出額を示したものであり、サ～セは、オーストラリア、タイ、中国*、ラオスのいずれかである。オーストラリアに該当するものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

23

*台湾，ホンコン，マカオを含まない。



統計年次は 2015 年。
UN Comtrade により作成。

図 4

① サ

② シ

③ ス

④ セ

問 6 東南アジアとオセアニアの国々には、歴史的経緯から多様な文化がみられる。東南アジアとオセアニアの国・地域の生活文化と民族・宗教について述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① インドネシアのバリ島では、ムスリム(イスラム教徒)が人口の多数を占めている。
- ② オーストラリアでは、1970年代に白豪主義政策が廃止された後、世界各地からの移民と共生する多文化主義がとられてきた。
- ③ シンガポールでは、学校教育や行政・ビジネスの場で、主として英語が共通語として用いられている。
- ④ ベトナムでは、かつて宗主国であったフランスの影響から、コーヒーやパンを飲食する習慣が広まった。

地理 B

第 5 問 中国とブラジルに関する次の文章を読み、下の図 1 を見て、下の問い(問 1～5)に答えよ。(配点 14)

中国とブラジルには、ともに①世界有数の大河が流れている。両国は、国土面積が広くかつ同程度で、②農業が盛んであり、資源も豊富である。そして、両国は、インド、南アフリカ共和国、ロシアとともに経済成長が注目されており、これら 5 か国は③BRICSとよばれている。一方、中国とブラジルの④社会基盤(インフラ)の整備状況には違いがみられる。また、歴史的経緯や社会的条件などを背景に、両国では⑤他国との結びつきが構築されてきた。

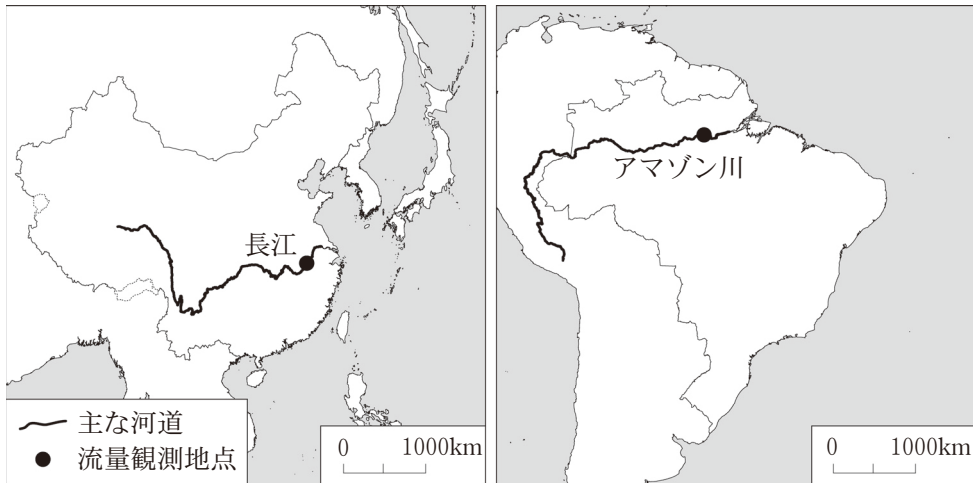
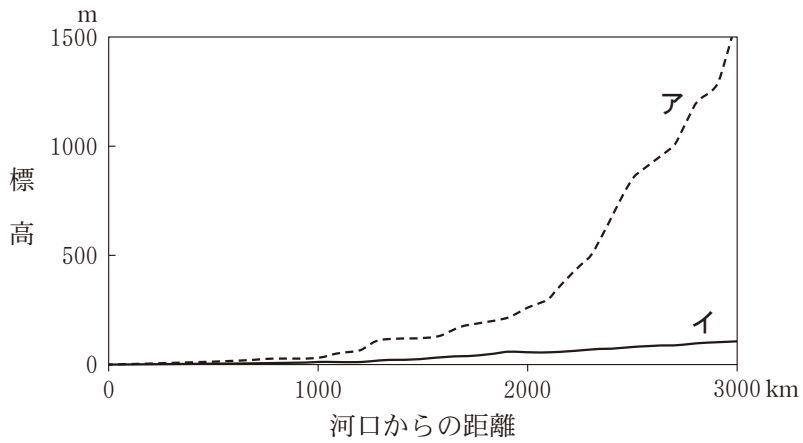


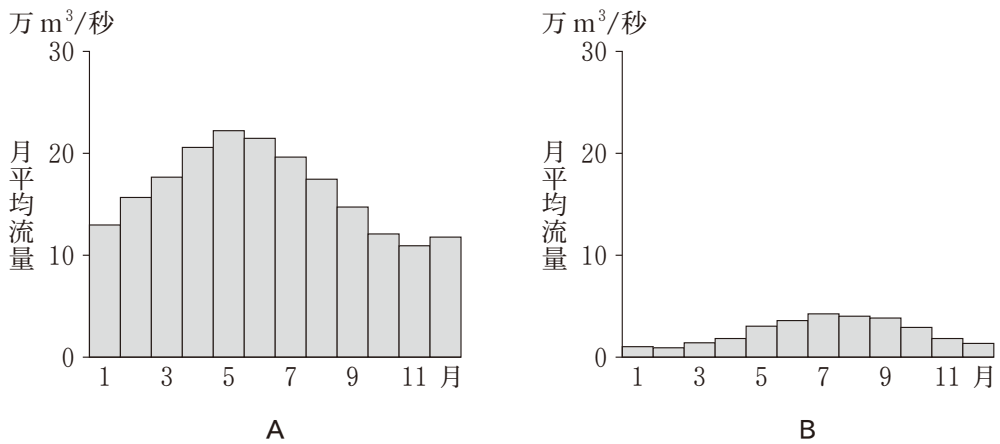
図 1

問 1 下線部①に関して、次ページの図 2 中のアとイは、図 1 中の長江とアマゾン川のいずれかの河川の^{こうばい}勾配を示したものであり、次ページの図 3 中の A と B は、いずれかの河川の流量観測地点における月平均流量を示したものである。図 2 中のアとイおよび図 3 中の A と B のうち、長江に該当する正しい組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 25



この図では、河口から 3000 km まで、標高 1500 m までの範囲が示されている。
USGS の資料などにより作成。

図 2



Global Runoff Data Centre, University of New Hampshire の資料により作成。

図 3

	①	②	③	④
河川の勾配	ア	ア	イ	イ
月平均流量	A	B	A	B

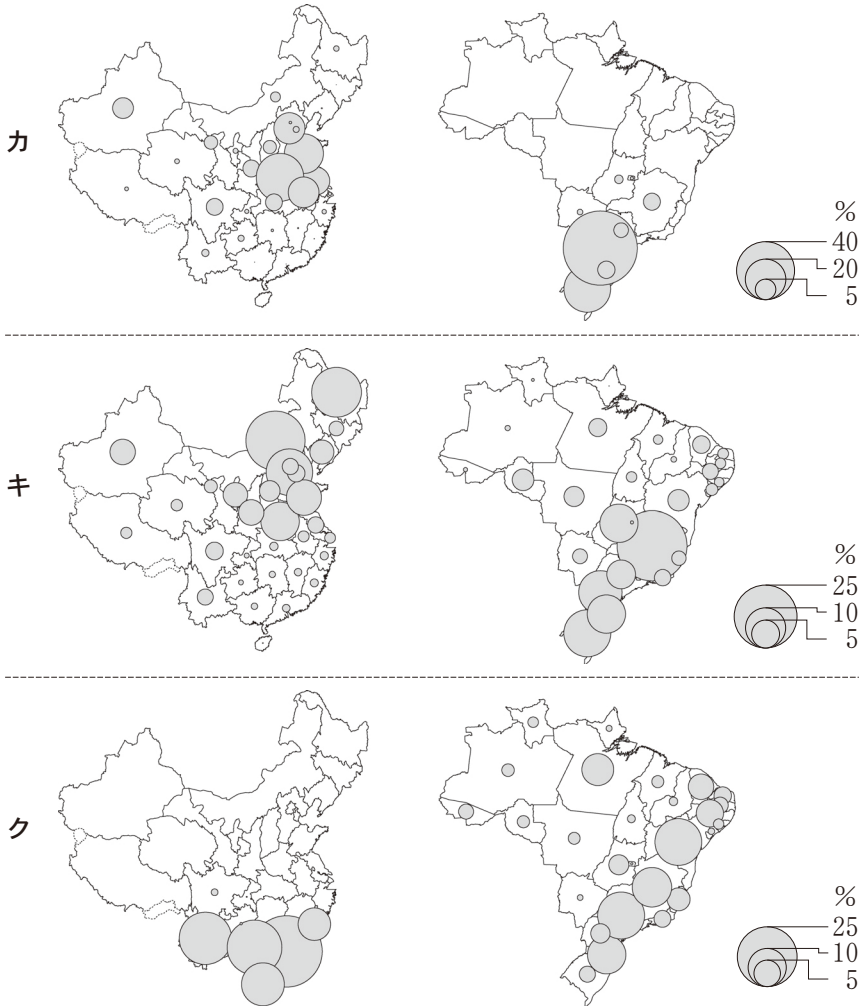
地理 B

問 2 下線部①に関して、次の図 4 中のカ～クは、中国*とブラジルにおける牛乳、小麦、バナナのいずれかの生産量について、それぞれの国全体の生産量に占める省**または州***ごとの割合を示したものである。項目名とカ～クとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 26

*台湾、ホンコン、マカオを含まない。

**省に相当する市・自治区を含む。

***州に相当する連邦区を含む。



統計年次は、ブラジルの牛乳が 2017 年度、ブラジルのバナナが 2016 年度、それ以外は 2014 年度。

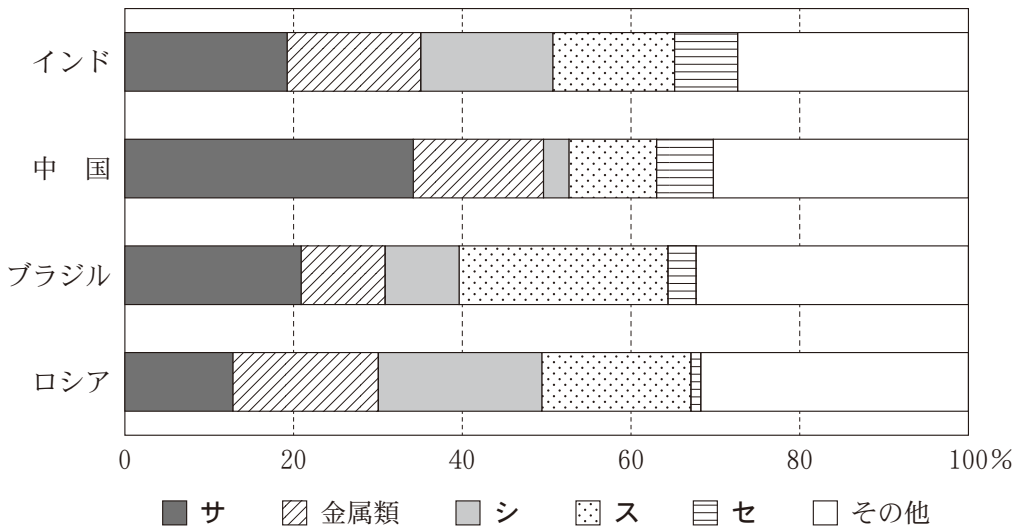
『中国統計年鑑 2015 年版』などにより作成。

図 4

	①	②	③	④	⑤	⑥
牛乳	カ	カ	キ	キ	ク	ク
小麦	キ	ク	カ	ク	カ	キ
バナナ	ク	キ	ク	カ	キ	カ

問 3 下線部㉔)に関して、BRICS の国々の中でも産業構造や工業の発展過程には違いがみられる。次の図 5 は、インド、中国*、ブラジル、ロシアにおける製造業生産額全体に占める品目別の割合を示したものであり、サ～セは、機械類、食料品・飲料、石油製品、繊維品のいずれかである。食料品・飲料に該当するものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

*台湾、ホンコン、マカオを含まない。



統計年次は 2015 年。

UNIDO, *International Yearbook of Industrial Statistics* により作成。

図 5

- ① サ ② シ ③ ス ④ セ

地理 B

問 4 下線部㉑に関して、中国とブラジルでは、交通網の発達や輸送手段に違いがみられる。次の表 1 は、両国を含む国土面積の広大ないくつかの国について、鉄道貨物輸送量と国内航空貨物輸送量を示したものであり、㉑～㉔は、アメリカ合衆国、インド、中国*、ブラジルのいずれかである。中国に該当するものを、表 1 中の㉑～㉔のうちから一つ選べ。 28

*台湾、ホンコン、マカオを含まない。

表 1

	鉄道貨物輸送量 (億トンキロ)	国内航空貨物輸送量 (百万トンキロ)
㉑	27,027	15,619
㉒	23,087	5,948
ロシア	22,986	772
㉓	6,658	620
㉔	2,677	575

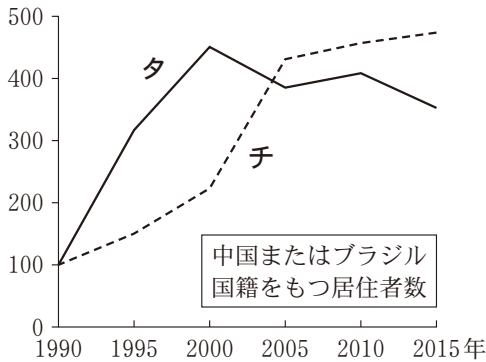
トンキロは、各貨物のトン数に輸送した距離を乗じた値。
統計年次は 2014 年。

World Development Indicators などにより作成。

問 5 下線部㉔に関して、国外への移住は、その国の歴史や社会・経済状況を背景とする。次の図6は、日本における中国*またはブラジル国籍をもつ居住者数の推移について、図7は、中国*またはブラジルにおける日本出身の居住者数**の推移について、それぞれ1990年の値を100とした指数で示したものである。図6中のタとチおよび図7中のXとYは、それぞれ中国またはブラジルのいずれかである。ブラジルに該当する正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 29

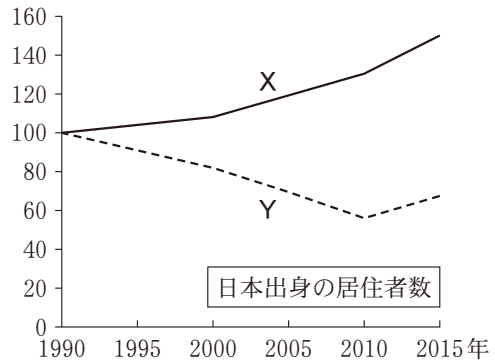
*台湾、ホンコン、マカオを含まない。

**中国においては日本国籍をもつ居住者数、ブラジルにおいては日本で生まれた居住者数。



国際連合の資料により作成。

図 6



国際連合の資料により作成。

図 7

	①	②	③	④
中国またはブラジル国籍をもつ居住者数	タ	タ	チ	チ
日本出身の居住者数	X	Y	X	Y

地理 B

第 6 問 東京の高校に通うスミさんは、教科書で見た山梨県の扇状地に興味をもち、甲府盆地とその周辺地域の調査を行った。次の図 1 を見て、この地域調査に関する下の問い(問 1 ~ 6)に答えよ。(配点 18)



図 1

問 1 事前調査として、スミさんはいくつかの指標から甲府の気候を他地域と比較した。次の表1は、図1中に示した甲府を含む3地点の気象観測所における、夏季の気温の日較差*と、冬季の総降水量**を示したものであり、ア～ウは、^{おまえざき}御前崎、甲府、東京のいずれかである。気象観測所とア～ウとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 30

* 6月、7月、8月の平均値。

** 1月、2月、12月の合計値。

表 1

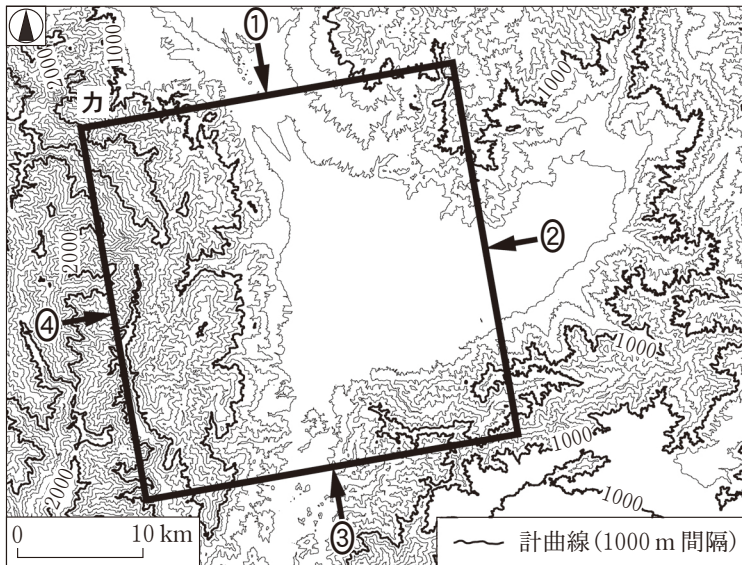
	夏季の気温の日較差(℃)	冬季の総降水量(mm)
ア	9.4	118.4
イ	6.5	159.4
ウ	5.1	248.7

気象庁の資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
御前崎	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
甲 府	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
東 京	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

地理 B

問 2 スミさんは、甲府盆地の地形的特徴を知るために、数値標高データを使って
鳥瞰図を作成した。次の図 2 は、図 1 中の W の範囲における甲府盆地とその
周辺の地形を 200 m 間隔の等高線で表現したものであり、下の図 3 は、図 2
中のカの範囲について、図 2 中に示す①～④のいずれかの方向から見下ろした
鳥瞰図である。図 3 のように見える方向に該当するものを、図 2 中の①～④の
うちから一つ選べ。 31



基盤地図情報により作成。

図 2



標高が高いほど濃く、高さは強調して表現してある。

図 3

問 3 スミさんは、古くから氾濫の多い河川として知られる御勅使川^{みだいがわ}の扇状地を歩き、地域の土地利用について住民から話を聞いた。次の図4は、図1中のXの範囲における2008年発行の2万5千分の1地形図(原寸、一部改変)に、1916年発行の2万5千分の1地形図に描かれた石積みの堤防の分布を重ねたものである。また、下の①～④の文は、図4中のA～Dのいずれかの地点における土地利用の特徴について、スミさんが作成したメモである。Dの特徴を説明した文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

32



図 4

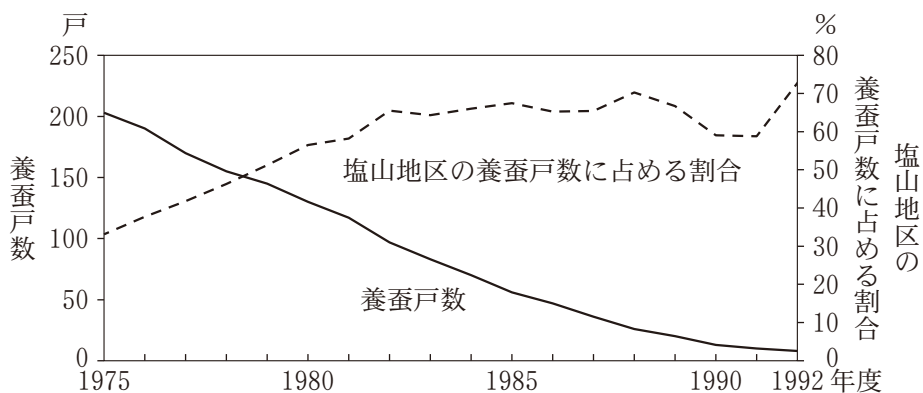
- ① 1916年ごろには御勅使川の河道に位置していたが、直線的な道路が整備されるなど開発が進み、住宅や農地がみられるようになった。
- ② かつては水を得にくい土地だったが、用水路である徳島堰^{とくしませぎ}から地形の高低差を利用して水を引くことにより、果樹栽培が広くみられるようになった。
- ③ 扇状地よりも高い位置にあり、住宅や農地は、かつてたびたび発生した御勅使川の氾濫の被害を免れてきた。
- ④ 古くからの集落であり、等高線に沿うように延びる主要道路に面して、公共施設がみられる。

地理 B

問 4 甲府盆地で養蚕業ようさんが盛んであったことを知ったスミさんは、かつて養蚕をしていた図 1 中の甲州市塩山地区こうしゅう えんざんの山間部にある神金地域かみかねを訪れ、住民に話を聞いた。次の写真 1 は、神金地域内に位置する図 1 中の地点 Y においてスミさんが家屋を撮影したものであり、下の図 5 は、神金地域における養蚕戸数と、それが塩山地区の養蚕戸数に占める割合の推移を示したものである。次ページのスミさんと住民との会話文中の空欄サとシに当てはまる語句の正しい組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 33



写真 1



『山梨県の蚕糸業』により作成。

図 5

地理B

- ス ミ 「写真1のような、屋根の中央部を突き上げるように高くした家屋がこの周辺には多いですね。なぜこのような形をしているのですか」
- 住 民 「養蚕が始まった当初は、このような屋根ではなかったのですが、自宅内で養蚕を行うスペースを広げるために、屋根と屋根裏を改修しました。その際に、屋根の中央部は(サ)と採光を重視した構造となりました。このような伝統的家屋には、現在は文化財として保存されているものもあります」
- ス ミ 「養蚕業は主要な産業だったのですね。いつごろ養蚕業が盛んだったのですか」
- 住 民 「神金地域では、明治から昭和の中ごろにかけて養蚕業が盛んに行われていました。しかし、図5からもわかるように、1990年ごろまでに、養蚕戸数が大きく減少しました。神金地域と塩山地区内の他地域を比べると、神金地域は養蚕業が(シ)地域でした」
- ス ミ 「現在は、養蚕に必要な桑園そうえんはほとんど残っていないのですか」
- 住 民 「そうですね。ほとんどが果樹園にかわりました」
- ス ミ 「時代とともに地域の主要な産業が変化してきたのですね。ありがとうございました」

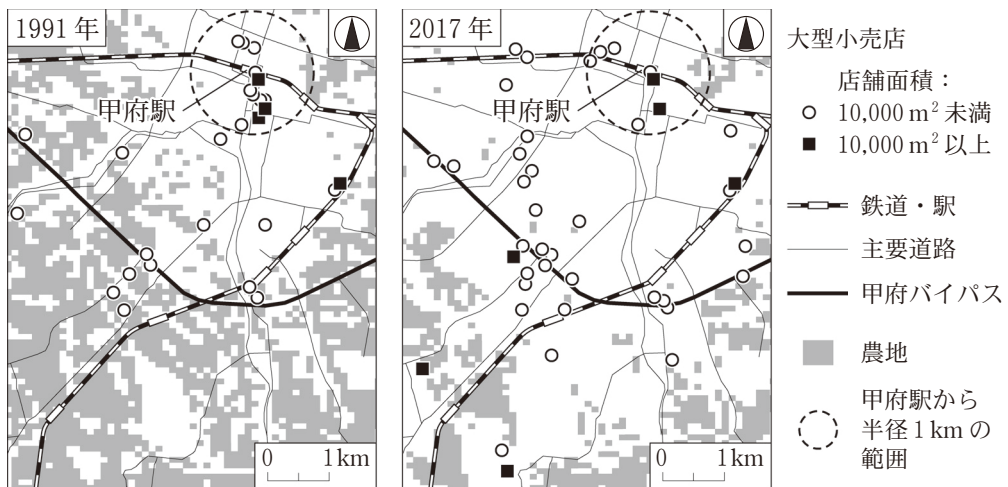
	①	②	③	④
サ	通気性	通気性	防音性	防音性
シ	遅くまで 行われていた	早くに縮小した	遅くまで 行われていた	早くに縮小した

地理 B

問 5 スミさんは、甲府駅南側の中心市街地に向かう途中に多くの大型小売店があることに気づき、甲府市とその周辺地域の商業の変化について調べた。次の図 6 は、図 1 中の Z の範囲における 1991 年と 2017 年の大型小売店*の分布を店舗面積別に示したものである。図 6 の範囲から読み取れることがらを説明した文として下線部が最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

34

*店舗面積が 1,000 m² 以上の店舗。



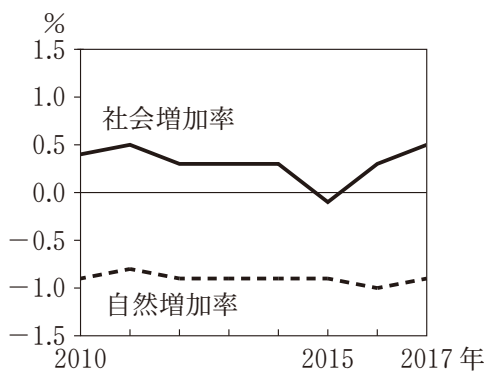
2017 年の図中の農地については、2016 年時点のデータを用いた。
国土数値情報などにより作成。

図 6

- ① 1991 年時点での店舗面積 10,000 m² 以上の大型小売店数は、甲府駅から半径 1 km の範囲内よりも範囲外の方が多い。
- ② 1991 年時点と 2017 年時点を比べると、2017 年の方が甲府駅から半径 1 km の範囲内において店舗面積 10,000 m² 未満の大型小売店数が多い。
- ③ 2017 年時点での甲府バイパスより南側にある店舗面積 10,000 m² 以上の大型小売店は、1991 年時点で農地であった場所に立地している。
- ④ 2017 年時点での甲府バイパスより南側にある店舗面積 10,000 m² 以上の大型小売店は、それぞれの最寄りの駅から 500 m 以内に立地している。

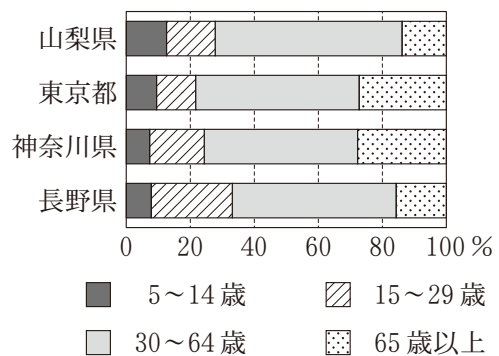
問 6 図1中の北杜市が、近年、積極的に移住促進の取組みをすすめていることを知ったスミさんは、移住の実態を調べてみた。次の図7は、北杜市における人口の自然増加率と社会増加率の推移を示したものであり、図8は、北杜市への転入者数が上位の4都県からの転入者の年齢別割合を示したものである。図7と図8から読み取れることからについて説明した文として下線部が**適当でない**ものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

*2015年の北杜市の居住者のうち、2010年に北杜市以外に居住していた者の数。



総務省の資料などにより作成。

図 7



統計年次は2015年。

国勢調査により作成。

図 8

- ① 自然増加率と社会増加率との関係からみて、2010年から2017年にかけて北杜市の総人口は増加している。
- ② 北杜市では、2015年を除いて転入者の数が転出者の数を上回っている。
- ③ 東京都と神奈川県からは、2015年時点における転入者に占める高齢者の割合が他の2県に比べて高い。
- ④ 山梨県内からは、2015年時点における中学生以下の子どもと同居する世帯単位の転入の割合が他都県より高いことがうかがえる。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。